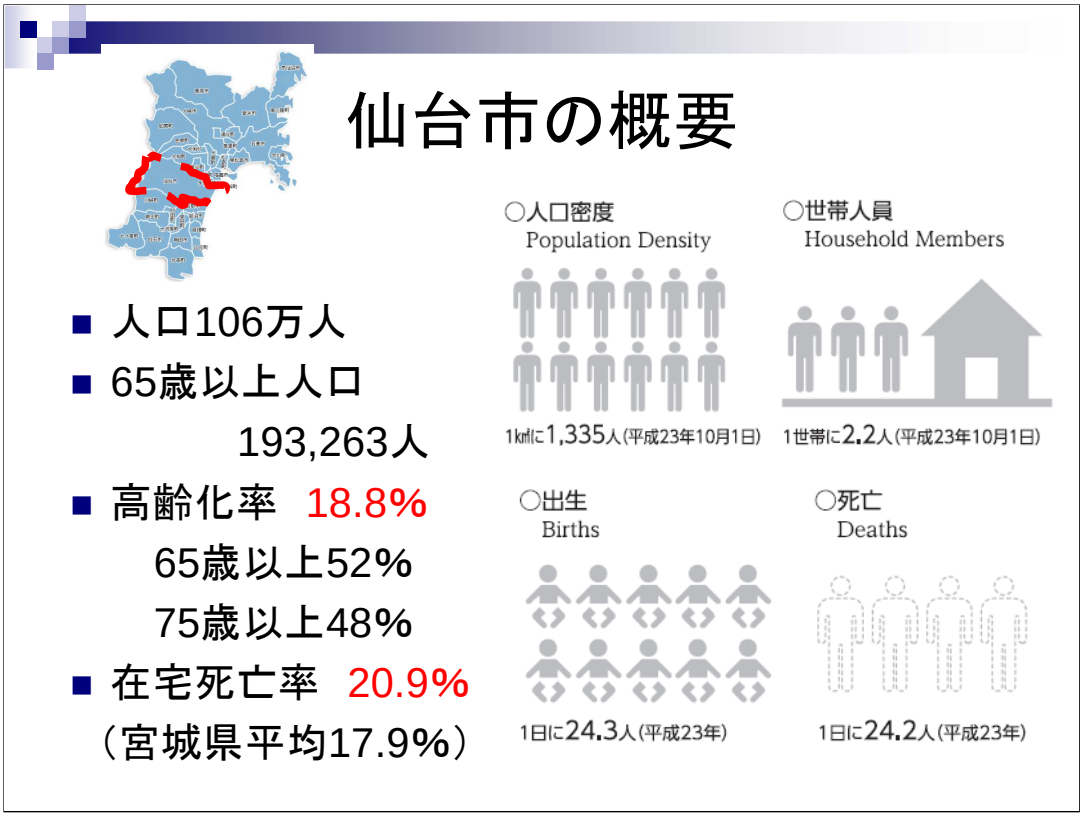
在宅医療連携拠点事業における当クリニックの取り組み

仙台往診クリニック



先ず始めに、仙台市の概要についてご説明いたします。

仙台市は、東北最大都市で、現在、人口106万人、高齢者は約19万人、高齢化率は18.8%になります。

在宅死亡率は20.9%で、宮城県や全国平均よりも高い数字となっています。

仙台市の医療・介護資源

◎医療資源

	ヶ所数		全国平均
病院 （精神科含む）	60		
在宅療養支援診療所	56	5.2（人口10万対）	10.1（同左）
訪問看護	57	5.3（人口10万対）	6.8（同左）
訪問リハビリ	4		
薬局（訪問薬剤指導届出）	263		

◎介護資源

	ヶ所数	備　　考	
地域包括支援センター	49ヶ所	中学校区に一箇所設置されている	
居宅介護支援事業所	245箇所		
訪問介護	245箇所	たん吸引が行える事業所　128箇所	
訪問入浴	16箇所		
施設サービス	老人保健施設　26	老人福祉施設　42	療養型施設　2

○病床数
Number of Hospital Beds

市民81人に1床（平成24年4月1日）

○救急車出動
Ambulance Responses

1日に127.1件（平成23年）

○医師
Physicians

市民306人に1人（平成22年12月31日）

訪問系事業所数は多いように見えるが、人口10万対で見ると平均より低いのが特徴である。
病院は、東北各県から患者が受診することもあり、市内中心部に集中している。

続いて、医療・介護資源についてご説明します。

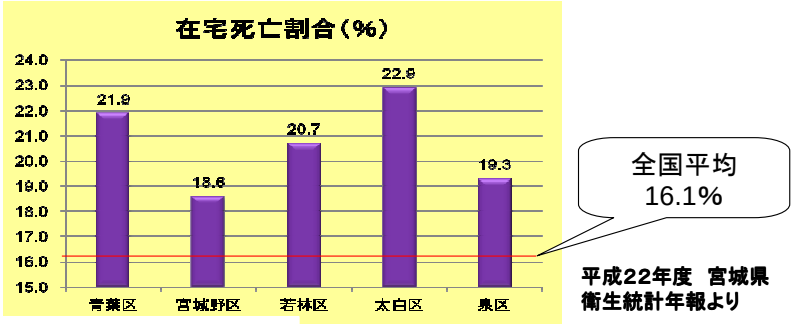
病院は市内に60ヶ所、東北大学病院を中心に東北各県から患者が受診しています。

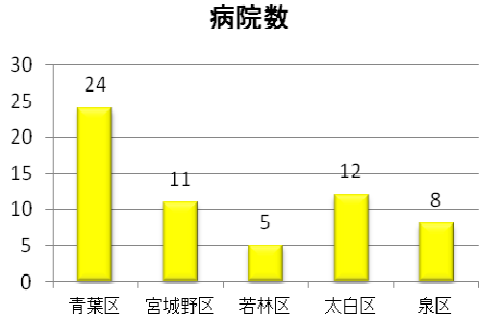
一般診療所は880箇所あり、うち、在宅療養支援診療所届出数は56ヶ所で、人口１０万対にすると5.2カ所で全国平均の半分程度なのですが

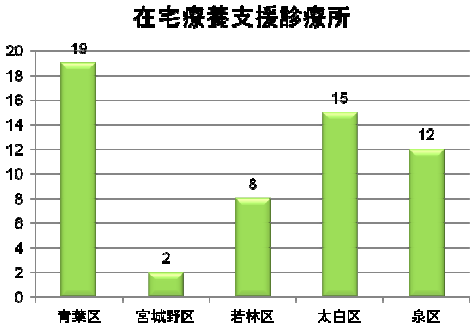
訪問診療を専門とする診療所が11ヶ所あり在宅看取りまで積極的に行っており、在宅死亡率が高い理由はここにあるかと思われます。

居宅介護支援事業所、訪問介護事業所は245箇所ずつあり、不足はないのですが、たん吸引が行える事業所が不足しているようです。

仙台市内　各区の在宅死亡割合と病院等の数



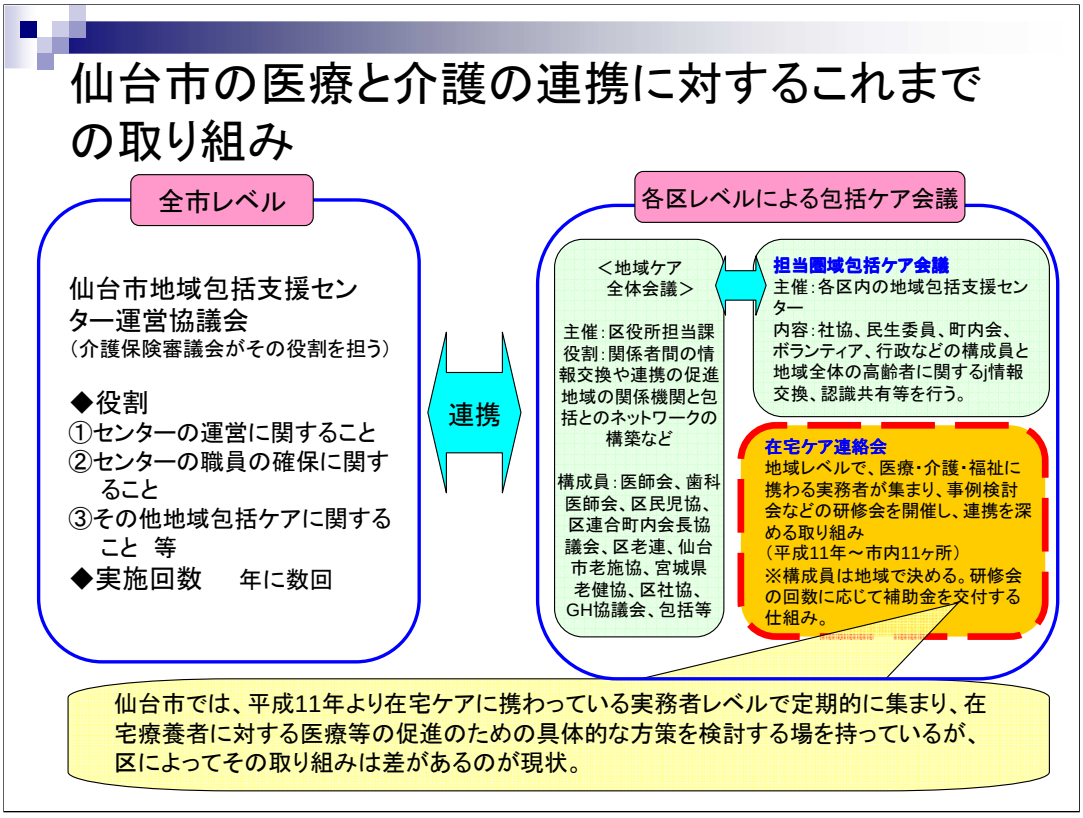




※在宅死亡とは、自宅での死亡及び有料老人ホームでの死亡数の合算を指す。

参考までに、こちらの上の紫グラフは仙台市内各区の在宅死亡率、黄色グラフは病院、緑グラフは在宅療養支援診療所の数を表したものです。

在宅死亡率の山と、在宅療養支援診療所数の山が同じ形を示しているのがわかります。



こちらは仙台市の医療介護の連携に対するこれまでの取り組みを表したものです。

最も積極的に活動しているのは在宅ケア連絡会というもので、市内１１カ所にあり、在宅ケアに携わって実務者レベルの方々が定期的に集まり、研修会を開催したり困難事例の検討会などを行っておりましたが、区によって取り組みに差があるのが現状です。

仙台往診クリニックの概要と診療状況

＜概要＞

○施設区分

・強化型在宅療養支援診療所　訪問専門のクリニック

○人員配置　医師　常勤6名　非常勤10名　看護師9名

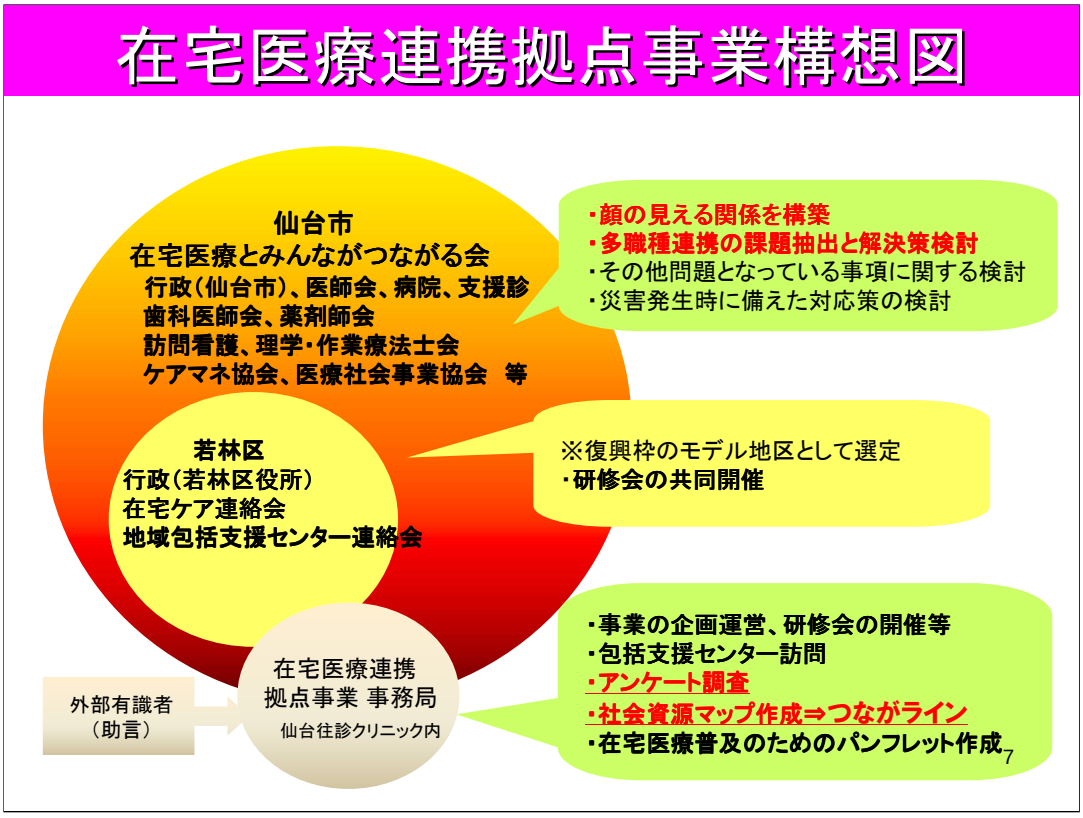
○訪問範囲　仙台市全域及び近隣市町村の一部

＜診療の状況＞

24時間365日の診療体制

患者実数	約530名
総訪問件数（月）	約1300件
看取り（年）	約110名
新規患者（月）	約20名

では、ここで仙台往診クリニックの概要をお伝えします。



こちらの図は、本事業をスタートする時に作成した構想図です。ほぼ構想に沿って実施することができました。

まず大きな円は、仙台市全域を対象としました、本日の「在宅医療とみんながつながる会」のことです。つながる会は、顔の見える関係を構築すること。多職種連携における課題抽出と解決策の検討を行うことを目的に実施してきました。

次に、小さな黄色の円の部分ですが、研修事業に関しては、若林区をモデル地区として選定させていただき、若林区在宅ケア連絡会と共同で、研修会を開催すること等すすめてきました。

このほか、災害発生時の取り組みとして、つながる会で災害時の通信についての研修を実施しました。

そして在宅医療の普及啓発のために、パンフレットを作成いたしました。

また、仙台市内多職種を対象としたアンケート調査を実施し、連携の課題の抽出や、情報共有の課題を**まとめました**。施設の生きた情報が不足していること、患者情報の共有が困難であることなどがわかりました。それらを踏まえ、検討した結果、本事業は単年度のものであり、短い時間で可能な、皆が必要としている情報共有システムを作るのはどうかと考え、生きた施設情報のやり取りができるものにしようと、情報共有システムつながラインを考案することとなりました。
当初予定していた社会資源マップは、つながラインになりました。

在宅医療とみんながつながる会

参加構成：各団体代表者（医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝ協議会
看護協会、PT会、OT会、包括連絡協議会、ケアマネ協会、老人福祉施設協議会）
その他医療・介護関係者、行政など

第1回	9月26日	64名	①国の動向と在宅医療連携拠点事業について情報提供 ②テーブルごとに意見交換「連携で困っていること。悩んでいること」
第2回	11月28日	78名	①アンケート調査結果及び課題報告 ②ワークショップ　多職種連携における情報共有についての検討
第3回	2月28日	74名	①多職種情報共有システム「つながライン」を使ってみよう！ ②在宅医療普及啓発パンフレット「知っておきたい在宅医療のこと」 ③災害時における通信手段の確保への取り組み

これは、在宅医療とみんながつながる会の様子です。

第1回目は9月に、第2回目は11月に行いました。その間、アンケート調査等を行いました。

医療と介護における多職種連携上の課題抽出のための実態調査の実施

＜目的＞　他施設間・多職種間連携に関する課題の抽出

＜アンケート内容＞

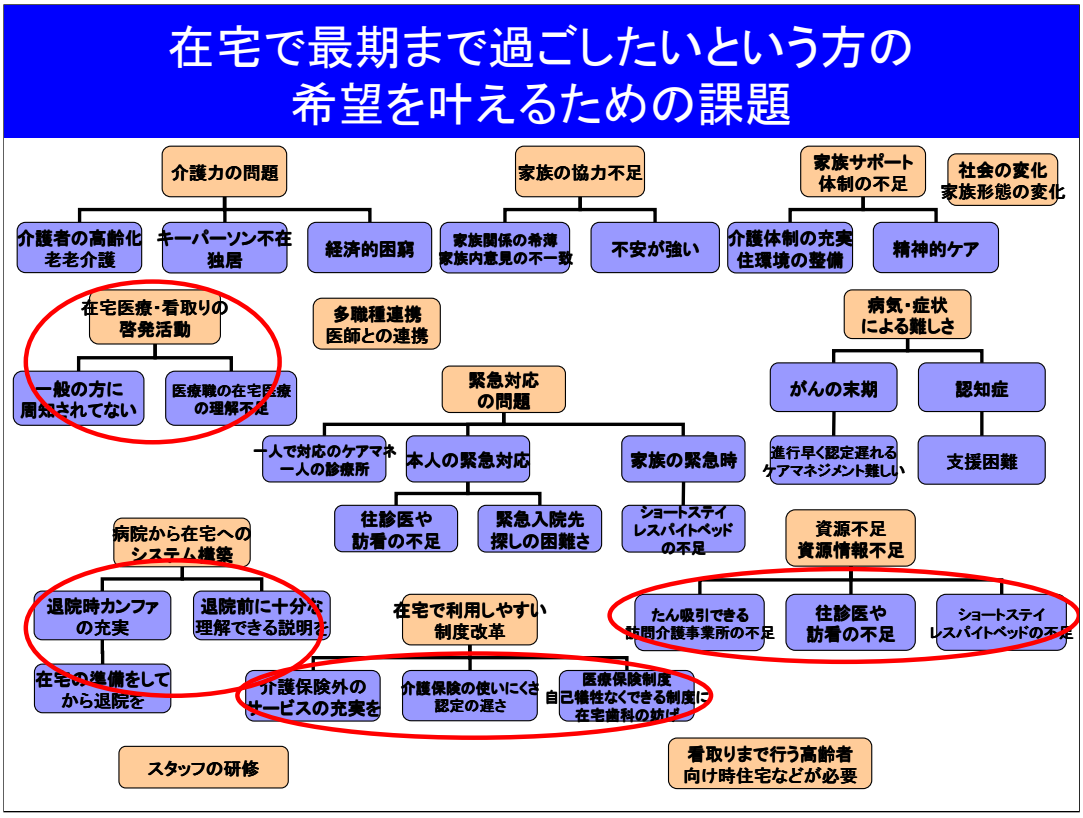
① 仙台市内の各事業所の運営体制
② 他施設との多職種連携上に必要な情報と施設情報の開示について
③ 多職種連携の為の施設情報・患者情報の共有項目
④ 多職種間における連携課題
⑤ 在宅医療に関する研修

＜調査票配布対象先　回収数／配布数＞

① **病院　36**／60ヵ所　（宮城県病院名簿　平成24年4月1日現在）
② **在宅療養支援診療所　16**／55ヵ所　（東北厚生局届出受理医療機関名簿　平成24年8月6日現在）
③ **在宅療養支援歯科診療所　15**／24ヵ所
（独立行政法人福祉医療機構（WAMNET）検索　平成24年9月1日現在）
④ **訪問看護ステーション　21**／54ヵ所　（仙台市介護保険サービス事業者一覧　平成24年9月1日現在）
⑤ **調剤薬局　101**／248ヵ所　※うち在宅訪問実施は39カ所
（みやぎ薬局検索「在宅医療」参加とある薬局　平成24年9月1日現在）
⑥ **居宅介護支援事業所　92**／245ヵ所　（仙台市介護保険サービス事業者一覧　平成24年9月1日現在）
合計 281／686ヵ所　**回収率 40.1%**

調査票を配布したのは　こちらの仙台市内6業種686カ所といたしました。

281カ所から回答をいただき、回収率は40.1%でした。



アンケートはKJ法で課題を抽出しました。

第1回目の在宅医療とみんながつながる会のアンケートからは、介護者、家族の介護体制や価値観に関する課題、

またそれを解決するために啓発活動を行うべきだという意見が多く出されました。

郵送による調査結果では、在宅医療を支えるための体制に関する課題が多く出されました。

例えば資源不足、資源の情報不足として、たん吸引を実施できる訪問介護事業所の不足や、対応している事業所がわからないとか

緊急時の問題として、緊急時に入院できる施設や、夜間対応ができる施設の不足などあり、ケアマネ、支援診療所、訪問看護、病院などの職種から意見が出ていました。

その他に、病気・症状におる対応の難しさとして、がんの末期の方の介護認定の遅れの問題がケアマネから多くありました。

全職種からの共通の意見として、退院時のカンファレンスの強化の声がありました。

他施設・多職種連携のための
施設情報・患者情報共有の課題

多職種による情報共有の体制作りを望む声が多かった。
ポイントは、①タイムリーな患者情報の共有
②病院、施設間の統一した内容や様式の使用
③電子媒体の利用

多職種情報共有支援ツール「つながライン」の考案

＜名前の由来＞
宮城弁では、「〇〇してほしい」ということを「〇〇してけらいん」と言います。
人と人とを結ぶ「ライン」と「らいん」をかけて、「みんながつながってほしい」という思いを込めて、「つながライン」と命名しました。

課題：加入者を増やし、施設間のやり取りがスムーズになるように、相互に運営の工夫を図っていくこと。

こちらは、多職種における情報共有の課題をまとめたものです。

大きく患者情報と施設情報のことに対する意見が出ておりまして、

患者情報はタイムリーに共有したいということで

電子媒体を利用していければという意見が多くありました。

また、紙でのやりとりとしても、内容や様式がばらばらなので、そこが統一できればと云う声も多かったです。

施設情報に関しては、各々の施設が何ができるか知りたい、共有できたらという声多くありました。

在宅医療体験実習の実施（12月）

病院看護師、退院支援担当看護師等
病院関係者を中心に在宅医療についての実習を実施した。

（効果）在宅医療でできることについて、実際を見たので、
退院支援に役立てることができると思う、など。
（課題）継続的に受け入れられる体制づくりが必要。

在宅医療普及啓発パンフレット「知っておきたい在宅医療のこと（すごろく付き）」

仙台市を中心に3万部を配布

また、在宅医療体験実習をつながる会の方々に広報し、元々研修医や、在宅医療を知りたいという医師は常に研修を受け入れておりましたが、今回病院の看護師さんや、ソーシャルワーカーさんを受入れ、在宅医療のイメージが変わった、暗いイメージがあったが、重度の方も、みな幸せそうに楽しそうに暮らしていて、退院支援の時、重症だから在宅は無理と決めてつけていたことなど反省した。といった感想がありました。大変有効な研修であったと思われます。

また、在宅医療の普及啓発のために一般市民でも、医療介護に携わる方にも使っていただけるようにパンフレットを作成いたしました。反響が大きく、勉強会や健康相談の時に使いたいと、多くの所から追加注文をいただいております。

研修会の共同開催

若林在宅ケア連絡会　平成24年度講演会
対象：若林区内の医療・介護・福祉事業所従事者
日時：平成25年3月12日（火）18：30～20：00
内容：

◆講演
「チームもりおか」による多職種連携の実践
講師：在宅医療連携拠点事業所チームもりおか　所長　板垣園子　氏

◆情報提供
「多職種情報共有システムつながラインの提案」
発表者：　仙台往診クリニック　　在宅医療連携拠点事業担当　佐々木みずほ

今後の課題

①つながラインの浸透と継続の体制構築
②たん吸引等が行えるヘルパーなど人材の育成
③在宅医療に関する地域住民への普及啓発

こちらは研修会の中でも、既存の組織、仙台市若林在宅ケア連絡会と協働開催した研修会です。チーム盛岡の板垣所長さんに来ていただきました。100名程参加し、盛況に終わりました。他にも看取りの勉強会や新人ケアマネさんの勉強会など実施してまいりました。3日前の20日には、宮城県のリーダー育成研修があり、県内のもう一つの拠点である爽秋会岡部医院の佐藤先生と研修を実施してまいりました。

今後の課題としては情報共有システムつながラインの浸透と継続を通して、本当の連携につなげていき、皆の望むような生活の支援ができるようにすること。

二つ目は、当クリニックは介護職員のたん吸引の研修機関になっておりますが、なるべくヘルパー事業所の負担が少なく、医療的ケアができる人材を育成していくこと。

一般市民、医療福祉介護従事者に、在宅医療の普及啓発を実施していくことです。

ご清聴ありがとうございました。